

井の国歴史懇話会報

VOL19

発行：井の国歴史懇話会事務局 発行日 平成 31 年 4 月 16 日



講演「中井家文書から見た井伊氏」

国士舘大学専任講師 夏目琢史先生



はじめに
NHK大河ドラマ『おんな城主直虎』の人気にともない、龍潭寺の門前にある井伊家元祖共保出生の井戸も一躍全国的に有名になりました。今回は、この

井戸が引佐の歴史にとって、どのような意味をもっていたのか、あらためて考えてみることにしたいと思います。

1 直虎以前

まず、直虎以前の中世の引佐の姿を知る史料は、ほとんど残っていません。よって、私たちは、引佐地方に残された古い伝承をもとにその痕跡を探っていく必要があります。その一つの突破口が「竜宮小僧」の伝説といえるでしょう。

ご存知の通りこれは久留女木地区に残る古い伝承ですが、これまた大河ドラマによって一躍有名になりました。もともと「竜宮小僧」は、大正年間に出された『引佐郡誌』で紹介されたものですが、実は、それに眼をつけたのが、民俗学者の柳田国男でした（『桃太郎の誕生』初出1932年）。柳田は、このとき同時に、鎮玉地区の行基伝説にも注目しますが、「久留女木」という地名も含め、これらの伝説がいずれも

「竜宮」=水にかかわるものであったことを見抜きました。

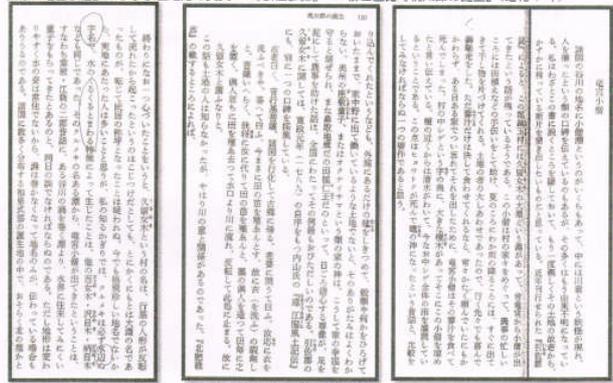
たしかに、引佐地方には、水にまつわる伝説が多くあります。そもそも「渋川」「田沢」「久留女木」「川名」—— いずれも、水に関する地名です。渋川の右近次郎の伝説にも水にかかわる「蛇」が登場しますし、四方浄の行基伝説にも海にまつわる伝説（波の音を教える）がのこっています。つまり、古い時代の引佐の歴史を知る手がかりとして、“水”にまつわる伝説が、一つのカギになりそうです。それは、「竜宮小僧」などが暮らす水の世界（「竜宮」）が、広く観念されていたことにもとづくでしょう。それは、地名のなかにも、たしかに刻印されています。井伊家の元祖である共保が、“井戸から生まれた”とするあの伝説も、まさに、この“水”の世界と密接にかかわるものであったと考えてよいでしょう。

2 直虎以後

直虎以後の引佐の様子は、地元のにこる古文書から解明することができます。とくに、江戸時代初期の井伊谷村周辺の暮らしには、二つの特徴があったと考えられます。一つは大規模な開発がおこなわれたことです。人口の増加にあわせ、新田開発、社殿やお堂・住居の建設などの土木工事のラッシュが続きました。当然木材の需要が高まり、山間部の開発も進みました。もう一つの特徴は、水不足や洪水など自然災害に悩まされたことです。旱魃が頻繁に起き、雨乞いも行われました。その一方で、大雨によって堰が壊れて大きな被害をもたらすことも多くありました。

実は、こうした事象は、相互に関連していたのでしようが（森林伐採 → 洪水）、当時の人びとにとって、生活のための“水”の確保とコントロールは死活問題

(1) 『竜宮小僧』が示す引佐地方の真実 : 『引佐郡誌』 柳田国男『桃太郎の誕生』(昭和7年)



でした。実際、井伊谷村の二宮神社神主家の中井家に伝わる日記(「中井日記」)には、こうした様子がありありと記されています。

こうした水のコントロールは、すぐにはできませんでしたが、長い江戸時代のなかで、徐々に克服されていきました。人びとは、次第に安定的に生活を営むことができるようになります。ただ、そのなかで、昔ながらの“水”にまつわる様々な伝説は、次第にその影をひそめてしまったと考えられます。

3 「中井家文書」から何がみえてくるのか

さて、このたび、引佐の人びととの生活の歴史を知るための貴重な史料が新たに発見されました。それが、「中井家文書」です。これまで江戸時代前期の「中井日記」については知られていました。しかし、江戸時代の中期・後期の日記については散逸してしまい、その存在が確認されていませんでした。それがこのたび、龍潭寺のご厚意によって井伊谷へと戻されることになりました。この新しい史料群の調査にはまだまだ時間を要しますが、ここから様々な世界が見えてきます。

たとえば、江戸時代の後半、井伊谷周辺では、地域の問題の打開策をほかに求める動きが出てきたようです。江戸後期の政治的混乱のなか、旗本近藤氏も財政難に陥っていたのでしょう。それを認識していた中井氏は、社殿の再建などの地域の課題の克服を、彦根井伊家に対して求めるようになります。これが功を奏し、彦根井伊家と井伊谷との結びつきは、一段と強くなっていきます。こうしたなかで、井伊家の故郷としての引佐地方の歴史も、再発見されていくことになりました。中井氏らの調査によって、引佐地方の古い歴史が見つけられていくことになり、同時に、伝説の井戸など井伊家ゆかりの史蹟も整備されていくことになりました。あらたに見つかった中井家文書からも、そうした動きが具体的にみえてきます。

おわりに

井伊家元祖出生の井戸は、ずっと昔からそこにあり、数々の歴史の転換を目撃してきました。そして、幾度となく“成長”を遂げてきました。それは“水”に対する人びとの認識を象徴しているものであったといえるでしょう。長い時代のなかで、井伊谷の人びとによって支えられてきたこの井戸は、大河ドラマ『おんな城主 直虎』を経て、きっとこれからも、“成長”を続けていくことでしょう。

講演要旨

夏目先生には今回の講演録を、特別に寄稿して頂きました。本当に感謝しております。

31(令和元)年度の予定 (敬称略)

4月16日(火)13:00～

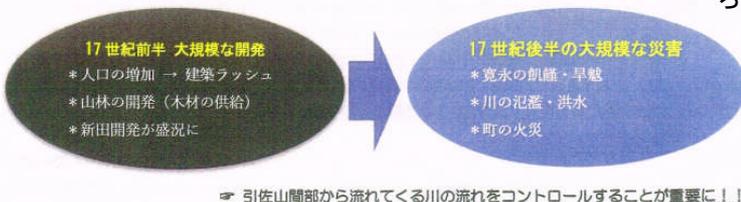
- ・総会
- ・講話「井伊直弼の茶の湯」
講師 井伊家17代当主 井伊裕子
会場 龍潭寺客殿

9月17日 講話 武藤全裕
「井伊直政が残した二人の男の子Ⅰ」
会場 龍潭寺客殿

10月4日 現地研修
「龍潭寺閑栖和尚と巡る旅」
～臨濟寺と久能山東照宮～

2月19日 講話 武藤全裕
「井伊直政が残した二人の男の子Ⅱ」
会場 龍潭寺客殿

<「中井日記」にみられる江戸時代初期の引佐>



information

年会費 ￥1000をお願いします。

ゆうちょ銀行12380 43576861 にご自分のゆうちょ銀行の通帳から振り込めば手数料は無料です